

## 2020年度第6回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2021年2月26日（金）18:00～19:00

会議の方法 WEB 会議（Zoom）

出席者；（理事）

馬場益弘 副会長、中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、平松隆 理事、  
橘田佳音利 理事、望月宣武 理事、菊池邦仁 理事、安田大助 理事、  
宇都光伸 理事、中村隆夫 理事、

（委員会関係）

八木達郎 外洋計測委員会委員長、日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長  
船澤泰隆 国際委員会外洋小委員会委員長、金子純代 キールボート強化委員長、  
服部好彦 ジャパンカップ委員会委員長、坂谷定生 参与、作田智恵子 艇登録 WG 長  
鈴木一行 国際委員会外洋小委員会委員

鈴木保夫 外洋事務局長、  
寺澤寿一 JSAF 事務局長、

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で18:00より馬場副会長の挨拶で開始した。

馬場：オリンピック組織委員会の森会長の発言からスポーツ界が目立っている。

パリに向けてMIXダブルスのレースが多くなった。

本日はセールナンバー発行規則、艇登録について明日の理事会に向けて皆さんの意見を聞きたい。

### （1）審議事項

#### ・セールナンバー発行規則関係

大村：セールナンバー発行規則の制定に伴い、外洋艇登録規則を変更しなければならないところがあり今その調整をしている。その結果が出たら皆さんに諮りたいと思うので明日の理事会では引き続き協議していくことをお願いしたい。

県連の人たちにも興味を持ってもらっている。外洋系だけではなくJSAFの関係団体も協力して頂ける可能性があること、それから海上保安庁からは協力、共感を頂いているのでぜひ進めたい。

以上の説明の後に、明日の理事会では引き続き協議をしていくことについて賛否を取ったところ、出席者全員から賛同の意があった。

## (2) 報告事項

### ①セールナンバー発行規則関係

各加盟団体への調査結果について鈴木外洋事務局長より以下の説明があった。

各加盟団体からの回答については手を加えずに皆さんへ事前に送った資料の通りである。

アンケートの設問は、セールナンバー発行規則を運用した場合に加盟団体において会員が減るか、減るとすれば凡そ何人位減ると予想するか？

その対策を加盟団体で取れるとしたら、どのような方法があるか？

の2問について意見を求めた。

その結果を集約すると、減少人数を予測するのは非常に難しいが、最大で合計104人となった。会員の少ない団体は殆ど減らないとの回答だが、会員数の多い団体では約20艇となっている。

取れる対策については、ジュニアからの育成、仲間意識や帰属意識の維持、レースの参加条件に差を付ける、オーナー中心の活動をする等の回答があったが、外洋三崎のみ、取れる対策は無く制度に反対する、との回答であったので客観性に欠けることから予測人数については参考にしなかった。

参考に過去10年間の艇登録数の増減を分析したところ、単に減っているのみではなく、過去10年間では430艇が新規または艇の代替えによる登録、420艇が登録抹消している。直近の2年間では登録が55艇、抹消が93艇となっており2年間で38艇が減少していることが判明した。

オーナー会員減少に対してJSAF側が取れる対策としては、

①新しいナンバー予約制度により、加盟団体であることのメリットを付ける。

②新登録制度をステップとして、加盟団体会員になることの流れを付ける。

加盟団体側で取れる対策としては、

①会員同士がコミュニケーションを取れる状況を作り帰属意識を高める。

②レースへのエントリーフィーを会員、非会員で差を付ける。

③魅力あるイベントを主催する。

等に集約される。

その他の意見として、「外洋東海からは会員が減少するが新制度に賛成。」

東京湾からは、「クラブやマリーナとの関係を立て直すことと、東京湾連絡会議を立ち上げて情報交換やレース、イベントの相互支援活動を始めた。」との前向きな意見がある一方で、三崎からは「艇登録WGは何方がメンバーでどの様な検討がされたか不明で密室協議である、外洋常任委員会への相談、報告もなかったとの認識ですが何故でしょう。」等の反対意見が出されている。

馬場：外洋三崎は外洋東海の次に登録艇数が多いので、話し合うことが必要と考える。

鈴木：事務局として、外洋三崎に対して困っていることがある。

金額だけ振り込まれて艇登録の申込書が提出されないことが多い。JSAF への入金  
が遅れることも常態化している。艇登録事務は JSAF から加盟団体に対しての委任  
業務となっているので、話し合いがこの問題解決のきっかけになれば良いと考える。

大村：新田会長は外洋常任委員会では賛意を示しており、会員増強委員会でも好意的にこ  
の制度を紹介している。外洋三崎内部のコミュニケーション不足ではないかと思う。

馬場：全海域がこのことに賛成することが重要と考えている。話せばわかってもらえると  
思うので話し合ってもらいたい。

大村：外洋三崎と連絡をとって話し合いの機会を設ける。

八木：過去にセールナンバーを取得して現在会員を辞めてセールナンバーを付けて走って  
いる艇はどうするのか？

鈴木：過去にナンバーを取得し、レースを止めたので登録更新をしないでセールナンバー  
をそのまま付けている艇のオーナーに、会員でなくても登録ができる制度を説明し  
たところ、それであれば登録更新するとの回答があった。

また、新規に登録した艇が更新を続けるために海上保安庁に情報公開することによ  
り、登録更新を促す。ナンバーに著作権があるわけではないので、現状ではそれ以  
上の手立ては思いつかない。

## ②艇登録事務局の設置について

作田艇登録 WG 長より以下の説明がなされた。

4月1日開設を目途に進める。

事務局員の目星がついたので、寺澤さんがやっていた事を習得することから始める。  
先ほどの鈴木事務局長の説明にあったように、外洋三崎のようなケースでは今まで  
はベテランの寺澤さんが行い、書類に不備があっても対応できていたが今度は慣れ  
ていないので、事務局が混乱しないように加盟団体事務局に協力をお願いしたい。  
これに対し、日下部委員からは、雇用関係はあるのか、またはボランティアか？

平松理事からは、費用の出所とレーティング証書についての質問があった。

それに対し、ボランティアとしては仕事量が多いこと、会員情報も扱うことになる  
ので事務委託は契約書を交わす準備をしている。また委託費用も予算化しており、  
その費用は艇登録料収入から賄うこと、レーティング証書はレーティングオフスで  
扱い、当面は艇登録事務だけを扱うことが説明された。

## ③外洋ダブルス日本選手権について

大村：4月21日から5月4日の間に、和歌山マリーナシティー沖から蒲郡ラグーナマリ  
ーナ沖までの200マイルのコースで行う。

参加要件は男女を問わず、全員 SAF 会員であること他資料の通りに開催する。

#### ④検討グループについて

大村：マッチングについては、JSAF ホームページに掲示板を載せる準備を進めている。

#### ⑤各水域理事・各理事からの報告

菊池：いわきでは今年、レースを復活することの検討を開始した。

安田：関西では、関西ヨットクラブが1月、2月のポイントレースを中止。

3月のスプリングレガッタを今年のスタートとしたい。

宇都：12月のレースを最後にレースは行っていない。状況を観て3月20日当りにレースの検討をしている。

5月の種子島カップ、8月の三島カップは自治体が開催する方向で検討して頂いている。

平松：シーボニアで年3回の新しいレースを検討している。

#### ⑥各専門委員会・小委員会からの報告

八木計測委員長：レーティングの申し込みは例年通りである。

日下部ルール小委員長：3月6日にルール委員会が開催される。

金子キールボート委員長：例年3月に行われている大学対抗レースは中止となった。

服部ジャパンカップ委員長：ジャパンカップ委員会からの報告事項は無いが、外洋ダブルス日本選手権に1艇のエントリーがあった。

鈴木（一行）オリンピック外洋小委員会委員：2021年の外洋国際ダブルスも詳細は決まっていない。

ORCが9月にギリシャでダブルスのレースを行う予定。

#### (3) 明日のJSAF理事会について

大村：今年のボートショーは会場とバーチャルの両方で行う。

会場は4月15日から18日まで、バーチャルは4月1日から30日の日程で行う。

JSAFでは海洋プラスチックとeセーリングの講座を行う予定。

東京湾では4月25日の三崎ー横浜レースにダブルハンドのデビジョンを設ける。

最後に中澤副会長の、ダブルハンドがメディアに注目されるようになれば良いと考える。との閉めの言葉で閉会となった。